

## 問題集の使い方

▶ 2023. 8. 18 (金)

### 「問題集」には2種類ある

問題集には、次の2種類があります。  
これは、勉強の目的の違いによる分類です。

- ①型問題集：ある問題の解法を習得し、応用する力をつけるもの  
たとえば、中2・「1次関数」の単元で、  
「動点と面積・体積の問題」を解けるようになるための問題集など…
- ②型問題集：“ある範囲”の問題が解けるかどうかをチェックするためのもの  
たとえば、“中2・1次関数の問題”が解けるかどうかをチェックする問題集など…  
”特定の解法”ができるかどうかをチェックするものではないことに注意。

### 「②型問題集」の学習の実態

「②型問題集」には、多くの解法タイプの問題が載っていますが、同じ解法タイプの問題は1題くらいです。  
だから、「②型問題集」を使って、特定の解法タイプの問題が解けるようになる学習をすることはできません。

問題を解いて、解けないときは解答書を見て、なるほどと“納得”して学習はおしまいです。そもそも、解いた問題がどのような解法タイプの問題であるのかわからないわけですから、もし、ある問題が解けなかったとしても、解けるようにする学習を計画することは不可能です。“問題”を解いた”だけの学習です。これでは学力などつくわけがありません。

### 問題の「タイトル」は役に立つか

その問題の”ねらい”のような「タイトル」がついている問題集もあります。  
しかし、その「タイトル」をよく見てください。  
たとえば、方程式の文章題で【速さの問題】などという「タイトル」がついていたとします。  
しかし、このタイトルからは、この問題が、「往くだけの問題」なのか、「帰るだけの問題」なのか、「往復する問題」なのか、「出会う問題」なのか、「追いつく問題」なのか、「ダイヤグラムの問題」なのかは分かりません。

問題文を読んで、「あっ、これは”追いつく問題”だ。」とわかって、解いたとしましょう。  
解けないときは、例のごとく解答書を見て解き方を”見ます”。

「なるほど！」とは思いますが、解けるようになったのかどうか不安です。  
 同じような考え方で解く問題をやってみたいのが”人情”です。  
 もちろん、この問題集には、そんな問題はどこにもありません。

「この問題の後では、ダイヤグラムの問題もやっておかねばならないのだが」と思いつつ、問題集の次のページを見ると、「発展問題」コーナーとして「ダイヤグラムの問題」がありました。「しかし、どうもこれは”出会う”問題だけを使うような…。」  
 そうです。前に学習した”追いつく問題”の確認や応用にはなっていないのですね。  
 載せている問題の個々の関連を考えて配列されているわけではありません。  
 「これと、これと、これを学習させよう」という考え方で問題を構成しています。  
 また、とりあげる解法タイプも網羅的ではなく、恣意的に抜粋したものにすぎません。

実は、「ダイヤグラムの問題」というのは、「往くだけの問題」、「帰るだけの問題」、「往復する問題」、「出会う問題」、「追いつく問題」を含む問題ですから、  
 「ダイヤグラムの問題」をきちんと解けるようになるには、  
 「往くだけの問題」→「帰るだけの問題」→「往復する問題」→「出会う問題」→「追いつく問題」の順で学習を積み上げていかなければならないのです。  
 このように問題が配列された問題集など皆無です。  
 こんな問題集を作ると膨大なページが必要になり、高額になって買う人がいないからです。  
 ”経営的”に作れないのです。

## 「①型問題集」とはどのようなものか

「①型問題集」のお話です。  
 「①型問題集」とはどのようなものか。  
 最初に、そのイメージ図を紹介しておきます。

### 解法パターンと問題の構成

数専ゼミの教材は、問題が解法パターン別に配列され、かつ、それぞれの解法パターンは、「例題－例題のチェック問題－演習問題（数題）－発展問題(数題)」で構成されております。だから、ある解法パターンの問題が解けなくとも、その問題に続く同じ解法パターンの問題を解くことで、「解けない」を「解ける」にすることができます。徹底練習が可能ということです。

たとえば、《問題構成》のイメージ図です…

解法パターン①：例題→チェック→演習 1→演習 2→演習 3→演習 4→**発展 1**→**発展 2**

解法パターン②：例題→チェック→演習 1→演習 2→**発展 1**→**発展 2**→**発展 3**→**発展 4**

…

解法パターン⑦：例題→チェック→演習 1→演習 2→演習 3→演習 4→演習 5→**発展 1**

「解法パターン」というのは、例えば、方程式の文章題（食塩水の濃度）でいえば、

解法パターン①：「食塩水＋食塩水」の問題

解法パターン②：「食塩水＋食塩」の問題

解法パターン③：「食塩水＋水」の問題

解法パターン④：「食塩水－水(蒸発)」の問題

解法パターン⑤：「取り出して混ぜる」問題

などのことです。

すべての単元には、このようにいくつかの「解法パターン」があります。

それぞれの単元には、どのような解法パターンがあるかは、

単元の「学習計画書」の項目(学習目標)欄に、構造的かつ系統的に書いてあります。

これを見ると、この単元ではどんな問題が解けるようになればいいのかが具体的にわかります。

→ [suusen.com](http://suusen.com) Link: | ★学習計画書★ |

「①型問題集」の教材のサンプル Link: | 中1数・方程式No.1 1 分数をふくむ方程式 |

Link: | 中1数・方程式No.1 1 s 発展問題 |

## 「②型問題集」で学習している限り伸びない

ここでまちがってはいけないことは、「②型問題集」が学習に役に立たないといっているのではありません。

とても役に立っている場合があるのです。それは、基礎がしっかりしていて、その単元ではどのようなタイプの問題があって、どのようにつながっているかを理解している人にとっては、この「②型問題集」は、その理解を確かめ、深め、応用力を高めるのにおおいに役立ちますし、実際にそのように使い、効果を出しています。

逆に、基礎がなく、その単元ではどんな問題が解ければいいのかがわかっていない人が、「②型問題集」を解くと、上で紹介したように、解答書を見て、なるほどと“納得”して学習はおしまいになります。応用力などいうのおよばず、基礎力すら身につけることはできません。

一生懸命に勉強しているのに成績が上がらないという人の多くがこのような「②型の問題集」を使った学習をしています。努力が実を結ばないのですね。

数専ゼミの勉強法を試して欲しいと思います。

## 解けないと解けるにする学習教材で指導する

### 数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: (023)633-1086 / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: [suusen@seagreen.ocn.ne.jp](mailto:suusen@seagreen.ocn.ne.jp)

(ブラウザのバック矢印でこの文書に戻ることができます。)